

ユキヤナギ促成時のシアナミド処理後から 促成開始までの外気温の影響

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き—その他の花木—生育調節

2 担当者

鈴木安和・宗方宏之・鈴木宏和

3 要旨

ユキヤナギの株入れ促成は株ごと掘り起こし、根を付けたままハウスに搬入して促成・開花させる方法である。ユキヤナギの休眠打破効果のあるシアナミド剤は、散布後の外気温により芽の動きが影響をうける可能性が考えられたため、処理から促成室へ入室する72時間の外気温の花芽に対する影響を明らかにした。

(1) シアナミド処理から促成開始までの72時間の外気温を10℃、15℃、18℃とした場合では、外気温10℃で促成中の枝先端の有効花蕾数が増加するが、これより外気温が高いと枝先端の花芽の座止が生じたり花芽の動きが遅れる（図1）。

(2) シアナミドの処理予定日から3日間は概ね最高気温が10℃以下であることを確認してから処理を行うと良い。

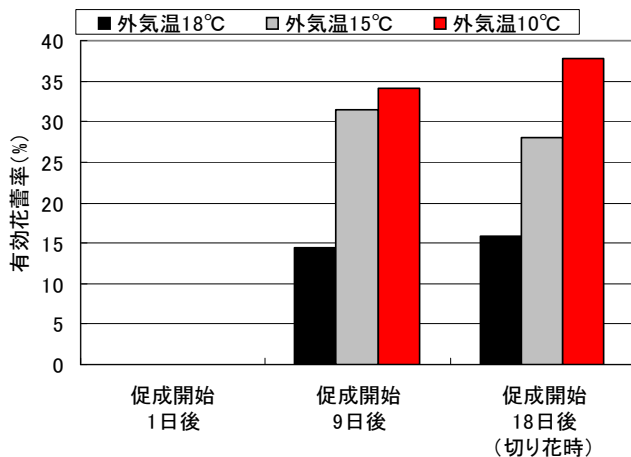


図1 シアナミド剤処理から促成開始までの外気温による有効花蕾率の推移



図2 花芽の発達程度

注)有効花蕾率(%)=

上記指数3~5の個数/総個数×100

4 主な参考文献・資料

(1) 平成20~22年度センター試験成績概要